

法政大学報

郵便番号 102-8160
東京都千代田区富士見
2丁目17番1号
発行 法政大学
編集 総長室

第37号 主な内容

新総長決まる 理学部に創生科学科が開設 2011年度入試展望 学生支援GP実施総括など 法政舎舎創とホフノード・梅謙次郎展(6・7面)	(2面) (3面) (4面) (5面) (7面)
サマソリテラ研究機構構想と活動(8面) OB訪問主ひで主人 山田耕之亮氏(9面) 付属校短信 きずな深まるオンラインネットワーク(10面) 表章名誉教授を偲ぶ(12面)	(8面) (9面) (10面) (11面) (12面)

最新情報は

<http://www.hosei.ac.jp/>



思いをかたちに

多摩ボランティアセンター
2009年4月、3キャンパス(市ヶ谷・多摩・小金井)に法政大学ボランティアセンターが設立された。それぞれのキャンパスでは教職員と学生スタッフが力をあわせて積極的な活動を行っている。窓外に見えるのはエッグドーム。

巻頭言



総長

増田壽男

大学のアイデンティティとはなにか

法政大学のアイデンティティとはなにか、私はその事例として、野上弥生子さんと大内兵衛元総長の「言葉」について考えてみたいと思います。
野上弥生子さんは、1985年に99歳で亡くなった大女流作家で、「真知子」「迷路」や「秀吉と利休」などの作品が有名である。この野上さんは法政大学女子高等学校の名誉校長を長年勤めておられた。法政女子高の教育の指標として、「女性である前にまず人間であれ」という言葉があるが、これは野上さんが創立期に生徒に話された言葉である。

わが国で女性が参政権を持つようになったのは1946年の戦後第一回の選挙からである。ここで初めて39人の女性議員が誕生した。そして日本憲法がこの年に公布され、男女同権が憲法に明記された。平塚雷鳥が創刊した「青路」に野上さんも参加している。それゆえに、この言葉の意味は非常に深いと思う。私は昨年法政女子高の同窓会に参加したが、70歳を過ぎた法政のOGがそれを誇りにして話す時、この言葉が法政の精神を支えているのだ、と強く感じた。

もう一つは大内兵衛元総長の「われらの願い」についてである。

一、願わくは、わが国の独立を負擔するに足る自信ある独立自由な人格を作りたい。

一、願わくは、学問を通じて世界のヒューマニティの昂揚に役だつ精神を振作したい。

一、願わくは、空理を語らず日本人の社会生活の向上発展のために、たとえ一石一木でも必ず加えるような有用の人物を作りたい。

大内元総長は退任後の講演「法政大学への遺言」の中で、この願いについて、再度次のように強調されている。

「今日より30年のち50年のち、日本はいかなる問題をもつてありましようか。その問題がなんであるにせよ、わが日本は世界のうちに立って、平和と民主主義を持って、世界のリーダーたる国にならなければなりません。その日本において、指導力を持つのはどういふ人間でなければならんでしようか。それは申すまでもなく、そのイデオロギーにおいて十分訓練されておるばかりでなく、さらにそれを実現する実力、人間としての労働力、技術、手腕においてすぐれたる人間でなければなりません。私がこういうことを申しますのは、この学園の理想として掲げた『われらの願い』が、それに通ずるからであり、今日、私が諸君と別れるにあたり、どうしても諸君、特に学生諸君に今一度それを諸君の覚悟として思い出していたいだきたいからであります。」

この大内元総長の言葉は、現在も輝きを失ってはいない。法政大学の精神は、多くの卒業生がこの言葉をしっかりと記憶し、それを実践することによって維持、発展すると考えている。

増田壽男総長が2期目へ

次期総長に選任



京生まれ69歳。64年慶應義塾大学経済学部卒業。70年同大学院経済学研究科博士課程単位取得満期退学。70年法政大学経済学部特別助手、71年同専任講師。72年同助教授、79年同教授。84年イギリス歴史研究所(ロンドン)客員研究員。86年イギリス歴史研究所(ロンドン)客員研究員。93年法政大学経済学部増田壽男総長(経済学部教授)を選出。12月1日の理事会で正式に選任された。任期は11年4月1日～14年3月31日までの3年間。増田総長は1941年東

本学では2010年11月26日、「法政大学総長候補者選挙規則」に基づき総長(ロンドン)客員研究員。93年法政大学経済学部増田壽男総長(経済学部教授)を選出。12月1日の理事会で正式に選任された。任期は11年4月1日～14年3月31日までの3年間。増田総長は1941年東

小金井キャンパス管理棟・北館竣工へ

小金井キャンパスの北館・管理棟新築工事よいよ大詰めを迎え、建物を囲んでいた足場も取り払われ、外観が姿を現した。現在は使用開始に向け北館の引越作業中である。管理棟の外観は、ベージュ色の角タイルから成り上品な趣をもつ。一方の北館は、白色の角タイルを使



完成間近の管理棟(11月中旬撮影)

向坂逸郎記念国際交流会館が竣工



本学が寄贈を受けた故向坂逸郎氏の旧宅跡地(東京都中野区上鷺宮)に建設していた「法政大学向坂逸郎記念国際交流会館」がこのほど竣工。10月18日に竣工式典が行われた。

本学の国際交流の現状と今後の展望

明日審査及び第三者評価委員会報告書を受けて

国際学術支援本部担当常務理事 徳安 彰

昨今の国際化の動き 2008年に政府が「留学生受入30万人計画」を発表して以来、至る所で国際化、グローバル化の潮流が声高に叫ばれ、さまざまな施策が打ち出されている。文部科学省では、留学生政策の具体的展開として、「留学生受入30万人計画」を核に留学相談機能の強化、入試・入国の改善、大学のグローバル化の推進、受入れの環境づくりや卒業後の進路などの施策を打ち出している。

研究分野およびコアとなる学部・研究科の創設③国際戦略の企画・立案し、それを強力に実施できる組織の設置④海外拠点機能の充実と新たな拠点の設置の推進⑤ホームページの充実を含めた情報発信の重要性⑥学生の満足度を高める教育・サービスのさらなる提供である。

10月23日、大学評価室主催シンポジウム「グローバル化時代における私立大学の質保証」が開催された。第一部では、安岡高志氏(立命館大学教育開発推進機構教授)による「大学の質保証と国際化」、公文溥大学評価室長による「法政大学における内部質保証」と題した基調講演が行われた。

清成学事顧問が瑞宝大綬章を受章

本学元総長で、学事顧問を務める清成忠男名誉教授(経営学部)が、平成22年秋の叙勲で瑞宝大綬章を受章した。



清成忠男学事顧問

清成学事顧問は1933年2月生まれ。56年東京大学経済学部卒業。72年本学経営学部助教授、73年経営学部教授。86年経営学

今後、本学の国際交流の進展のために活用される。向坂逸郎氏(1897-1985)は日本を代表するマルクス経済学者・社会主義思想家。旧宅跡地は、向坂氏の蔵書とともに本学に寄贈された。

「国際化」作業部会の答申では、短期大学との交流拡大に力を入れたとされている。具体的には、先に挙げた卒業生との交流ネットワークの構築など、多面的に国際交流を実現していくことになる。

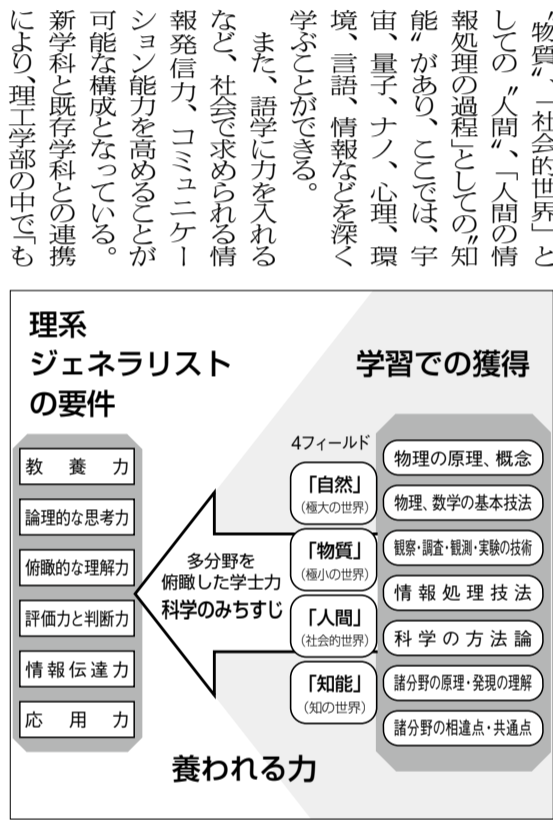
理工学部 創生科学科が開設

2011年4月、小金井質「自然」「人間」「知能」をキーワードに、理工学部創生科学科を開設する。学科名称にある「創生」は、広範な「科学」領域に前進、展開、アドバンスすることを目指すものであり、英語名称は教育の内容をより明示する「Department of Advanced Sciences」と称している。Sciencesは複数形としてさまざまな分野を表現している。

創生科学科では「科学の総合力を身に付けた人材を育成する」という理念を掲げ、自然科学・人文・社会の分野に限定した技術者ではなく、さまざまな既存の分野を俯瞰でき、社会的視野を有し、応用力・学際的総合力を身に付けた人材を育成する。また、理系・文系・人文・社会の分野に限定せず、人間とその営みや知能についての教育を通じて「科学領域を横断した」物理学・数学に基づく科学方法をさまざまな「フィールド」で活用できるように定式化し、多分野にわたる問題を解決できる統合力と汎用力が身につくようカリキュラムは設定されている。展開する4フィールドは「極大世界」としての「自然」、「極小世界」としての「物質」、「社会的な世界」としての「人間」、「人間の情

報処理の過程」としての「知能」があり、ここでは、宇宙、量子、ナノ、心理、環境、言語、情報などを深く学ぶことができる。また、語学に力を入れるなど、社会で求められる情報発信力、コミュニケーション能力を高めることが可能な構成となっている。新学科と既存学科との連携により、理工学部の中でも

「探求」のフィールドが用意され、科学と技術の両面からのアプローチが可能となる。本学科のような理系教育を前面にする領域のニーズは潜在的に大きく、時代を先取りした試みとして期待される。



教育開発支援機構 初年度の成果

学士課程教育の質保証を図ることを目的として発足した教育開発支援機構は、FD推進センター、学習環境支援センターに、2010年4月から発足した市ヶ谷リベラルアーツセンターを加えた3センターを擁する機関である。3センター体制となった2010年度の成果を報告する。

FD推進センター 授業改善についての調査・助言を行うFD推進センターでは、FD推進プロジェクトとしてシンポジウムやワークショップなどを企画・実施している。開催数は年を追って増え、2010年度の企画は8件とな

り、内容も多様化し、教員だけでなく職員がプレゼンターに加わる企画も登場し好評を博した。また、昨年度発足した「関東圏FD連絡会」の参加校4大学の各学生に呼びかけ、大学を超えた学生・職員・教員の協同コミュニケーション活動を通して「授業改善」や「より良い学びの場」を築くことを目的とした「HART」(法政、青山学院、立教、東洋大学の頭文字)＊「ユニティ」を発足させた。

学習環境支援センター

3キャンパスそれぞれに設けられている図書館やさまざまな学習支援施設は、管理体制の違いなどからそれぞれ独自に運営されている。そのため、求められている利用方法に応じた最適な施設の内が必ずしもスムーズに行われない場合があった。現在、施設・設備面から教育・学習支援の

あり方を考える学習環境支援センターでは、学生のさまざまな相談や要求を聞いて対応する窓口や、利用可能なサービスについて学内の全施設を案内できるアドバイザーを養成し、ワンストップサービスの総合窓口として利用してもらう、といった具体的な案が検討段階に入っている。

2010年4月に新たに発足した、市ヶ谷地区6学部の教養教育についてのあり方を再検討し、その充実・強化に向けた支援を目的とする市ヶ谷リベラルアーツセンターでは、2011年度の秋に、「自校教育」を市ヶ谷地区の基礎科目として開設すべく内容を編成中が期待される。

デザイン工学部完成年度を迎え



建築・都市環境デザイン・システムデザインの3学科からなるデザイン工学部は、2007年に設立されて本年度に完成を迎え、一期生を社会に送り出す年となる。工学部の教員であった故大江宏教授設計による市ヶ谷田町校舎(旧62年館)は、(株)山下設計によ

りリノベーションされたもので、建物規模と比べて、廊下・階段室の豊かさは設計者の思想が見事に反映されている。成熟した社会において機能のみに重視したデザインに反省が求められ、人間を中心とした社会や環境に配慮したデザインが求められていることを背景に、本学部では専門知識をもとに多面的かつ横断的知識・理論を基盤に人間の感性に訴えるものづくりをする総合デザインを身に付けることを目指している。そのため、まず入学経路が多様化した新生の学習

指定航空従事者養成施設の認可を受けました

法政大学飛行訓練センターがこのたび、国土交通省の航空従事者養成施設の指定(指定養成施設の認可)を受けた。

法政大学は指定養成施設を運営するため2010年3月に「法政大学飛行訓練センター」を設置し、4月から自家用課程の指定養成施設(テストコース)の運営にあたってきた。

4月からテストコースで訓練を行ってきた航空操縦学専修の3年生の学生12人が、自家用操縦士のライセンスを取得するため、国土交通省航空局による実地試験を受け、全員が合格した。今回の国家試験合格により、法政大学は国土交通省から指定養成施設の認可

を受け、このたびは、最終技能審査を当施設の技能審査員により実施できる等、より効率的に高い能力の操縦士の養成が可能となる。今後、事業用、多発限定、計器飛行証明課程の訓練を順次開始し、それぞれの課程で指定養成施設の取得を計画している。航空操縦学専修では「日本の空で日本人によるパイロット育成プロジェクト」を「飛べるエンジニア」のコンセプトのもと、日本の航空業界を担う人材を育成していく。



は、校舎使用の門限ぎりぎりまでスタジオで創作に励み、発表に備えている。

都市環境デザイン工学科はJABEE(日本技術者教育認定制度)認定継続とABEE認定の準備を進めている。2010年度大学法人指導のもとに、デザイン工学研究科も設立され、定員を大幅に超える140人以上の院生を迎えた。限られた環境も徐々に改善されていくが、高いレベルを維持するためにはさらなる環境を必要としている。総合デザイン能力を身に付ける人材の育成のための方針の基本となるディプロマ・カリキュラム・アドミッションの3ポリシーの明確な体系化の構築を進めている。

2011年度 入試展望

2011年度の入試改革

2010年度入試で本学は、現代福祉学部の福祉コミュニティ学科と臨床心理学科への再編に伴う一般入試T日程およびA方式の新たな実施、ならびにスポーツ健康学部でのセンター利用入試(前期・後期)の導入などを行った。センター試験利用入試の志願状況が全般的に好調であったため、志願者総数は前年度より8850人(10.3%)増加して9万4536人となった。

2011年度は理工学部(5番目の学科となる「創生科学科」が開設される。関連記事)。創生科学科の

2011年度 法政大学入学試験日程一覧

【一般入試 T日程】東京・札幌・仙台・新潟・金沢・長野・名古屋・大阪・広島・福岡の10会場を実施

試験日	学部	郵送出願期間(締切日消印有効)
2月5日(土)	法学部・文学部・経済学部・社会学部・経営学部・国際文化学部・人間環境学部・現代福祉学部・キャリアデザイン学部・スポーツ健康学部・情報科学部、デザイン工学部、理工学部、生命科学部(すべて全学科)	1月5日(水)~1月21日(金)

※GIS(グローバル教養学部)と、理工学部機械工学科航空操縦学専修はT日程入試での募集を行いません。

【一般入試 A方式】東京・札幌・仙台・名古屋・大阪・福岡の6会場を実施

学部	学科	郵送出願期間(締切日消印有効)	試験日
情報科学部	コンピュータ科学科	1月5日(水)~1月27日(木)	2月6日(日)
	デジタルメディア学科		
文学部I日程	哲学科	1月5日(水)~1月27日(木)	2月7日(月)
	日本文学科		
経営学部I日程	経営学科	1月5日(水)~1月27日(木)	2月7日(月)
	人間環境学科		
人間環境学部	人間環境学科	1月5日(水)~1月27日(木)	2月7日(月)
GIS(グローバル教養学部)	グローバル教養学科	1月5日(水)~1月27日(木)	2月7日(月)
法学部I日程	国際政治学科	1月5日(水)~1月27日(木)	2月8日(火)
	英文学科		
文学部II日程	地理学科	1月5日(水)~1月27日(木)	2月8日(火)
	心理学科		
経営学部II日程	経営戦略学科	1月5日(水)~1月27日(木)	2月8日(火)
	市場経営学科		
経済学部I日程	国際経済学科	1月5日(水)~1月27日(木)	2月9日(水)
	現代ビジネス学科		
社会学部I日程	社会政策科学科	1月5日(水)~1月27日(木)	2月9日(水)
	メディア社会学科		
現代福祉学部	福祉コミュニティ学科	1月5日(水)~1月27日(木)	2月9日(水)
	臨床心理学科		
デザイン工学部I日程	都市環境デザイン工学科	1月5日(水)~2月1日(火)	2月11日(金)
	システムデザイン学科		
理工学部I日程	機械工学科(機械工学専修)	1月5日(水)~2月1日(火)	2月11日(金)
	応用情報工学科		
生命科学部I日程	生命機能学科(生命機能学専修)	1月5日(水)~2月1日(火)	2月11日(金)
経済学部II日程	経済学科	1月5日(水)~2月1日(火)	2月12日(土)
社会学部II日程	社会学科	1月5日(水)~2月1日(火)	2月12日(土)
スポーツ健康学部	スポーツ健康学科	1月5日(水)~2月1日(火)	2月12日(土)
デザイン工学部II日程	建築学科	1月5日(水)~2月3日(木)	2月14日(月)
理工学部II日程	電気電子工学科	1月5日(水)~2月3日(木)	2月14日(月)
	経営システム工学科		
生命科学部II日程	生命機能学科(植物医科学専修)	1月5日(水)~2月3日(木)	2月14日(月)
	環境応用化学科		
法学部II日程	法律学科	1月5日(水)~2月3日(木)	2月16日(水)
	政治学科		
国際文化学部	国際文化学科	1月5日(水)~2月3日(木)	2月16日(水)
キャリアデザイン学部	キャリアデザイン学科	1月5日(水)~2月3日(木)	2月16日(水)

【大学入試センター試験利用入試B方式(3~5科目型)】

試験日	学部	学科	郵送出願期間(締切日消印有効)
1月15日(土) 1月16日(日)	法学部・文学部・経済学部・社会学部・経営学部・人間環境学部・現代福祉学部・キャリアデザイン学部・スポーツ健康学部・情報科学部、デザイン工学部、理工学部、生命科学部	全学科	1月5日(水) 1月14日(金)

【大学入試センター試験利用入試C方式(5教科6科目型)】

試験日	学部	学科	郵送出願期間(締切日消印有効)
1月15日(土) 1月16日(日)	法学部・文学部・経済学部・経営学部・人間環境学部・キャリアデザイン学部・情報科学部、デザイン工学部	左記学部のうち、文学部英文学科と心理学科、デザイン工学部建築学科を除く全学科	1月5日(水) 1月14日(金)

※国際文化学部、GIS(グローバル教養学部)はセンター試験利用入試を実施しません。

2011年度入試は一般入試8学部である。この方式は試験科目・科目を国立大とほぼ同じである5教科6科目とする。また、合格発表日と入学手続きの締め切りを国立大後期日程の合格発表日より後(もしくは同日)に設定している。このことにより、必要な納入金の節約を図ることができ、国立大志望者にとって受験しやすいものとなるのが最大の長である。

2010年度入試において志願者が大幅に増加した理由には、2009年度入試において志願者総数が2008年度より1万1330人減少し、かつ実質競争率(受験者数:合格者数)が2008年度より1.2倍に上昇したことが大きい。一方、相変わらず好転しない経済状況のもとで受験生の地元志向や安全志向が高まり、地方の国立大、中堅私立大への志願状況が顕著となっている。18歳人口はここ10年程度、120万人前後を緩やかに推移している見込みである。この安定期において、本学は教育の質向上の取り組みを継続・発展させながら、社会からの期待に応えていく必要がある。

2011年度入試は一般入試と併せて、センター試験利用入試B方式(数学2科目・理科・英語の4科目で行われる。入試制度改革としては、センター試験利用入試の方針が変更される。これまでのセンター試験利用入試の名称が「センターB方式(3~5科目型)」に変わり、新たに「センターC方式(5教科6科目型)」を新設する。導入学部は、法・文・経済・経営・人間環境・情報科・キャリアデザイン・デザイン工の7学部である。

2010年度入試において志願者が大幅に増加した理由には、2009年度入試において志願者総数が2008年度より1万1330人減少し、かつ実質競争率(受験者数:合格者数)が2008年度より1.2倍に上昇したことが大きい。一方、相変わらず好転しない経済状況のもとで受験生の地元志向や安全志向が高まり、地方の国立大、中堅私立大への志願状況が顕著となっている。18歳人口はここ10年程度、120万人前後を緩やかに推移している見込みである。この安定期において、本学は教育の質向上の取り組みを継続・発展させながら、社会からの期待に応えていく必要がある。

より多くの受験生に選択される大学を目指して

今年度のオープンキャンパスは3キャンパスで6月から9月にかけて計9回にわたりに行われ、延べ約3万7000人にわたる多数の受験生および保護者を迎えることができた。来場者のアンケートをみても満足度は高く、3000人を超えて受験生・保護者に対しての進学相談会での講演・個別相談などを通じ、精力的な活動を展開している。2011年度入試においても教職員および学生スタッフが連携・協力を深めていくことで、9万人台の志願者数を維持できるように努めていきたい。

次々に打ち出される大学院改革

大学院

2008年夏、「明日の法政を創る」審議会が充足。具体的には2011年4月から人文科学研究科が大学院法人法政大学が抱える課題解決に向け、さまざまに作業部会を設けている。

「大学院改革作業部会」も、一つの部会として立ち上がっている。その傘下に、「人文科学研究科」「社会科学」「自然科学」の三つの作業チームを配し、同作業部会と各作業チームとで、相互連携をとりながら本大学院の現状分析や今後の課題の洗い出し、また新規事業開拓の検討と具体化を行った。充足から約一年半の作業を経て、2010年4月に大学院改革作業部会より「明日の法政を創る」審議会に対し答

申を行っている。具体的には2011年4月から人文科学研究科が大学院法人法政大学が抱える課題解決に向け、さまざまに作業部会を設けている。

「大学院改革作業部会」も、一つの部会として立ち上がっている。その傘下に、「人文科学研究科」「社会科学」「自然科学」の三つの作業チームを配し、同作業部会と各作業チームとで、相互連携をとりながら本大学院の現状分析や今後の課題の洗い出し、また新規事業開拓の検討と具体化を行った。充足から約一年半の作業を経て、2010年4月に大学院改革作業部会より「明日の法政を創る」審議会に対し答

申を行っている。具体的には2011年4月から人文科学研究科が大学院法人法政大学が抱える課題解決に向け、さまざまに作業部会を設けている。

「大学院改革作業部会」も、一つの部会として立ち上がっている。その傘下に、「人文科学研究科」「社会科学」「自然科学」の三つの作業チームを配し、同作業部会と各作業チームとで、相互連携をとりながら本大学院の現状分析や今後の課題の洗い出し、また新規事業開拓の検討と具体化を行った。充足から約一年半の作業を経て、2010年4月に大学院改革作業部会より「明日の法政を創る」審議会に対し答

申を行っている。具体的には2011年4月から人文科学研究科が大学院法人法政大学が抱える課題解決に向け、さまざまに作業部会を設けている。

「大学院改革作業部会」も、一つの部会として立ち上がっている。その傘下に、「人文科学研究科」「社会科学」「自然科学」の三つの作業チームを配し、同作業部会と各作業チームとで、相互連携をとりながら本大学院の現状分析や今後の課題の洗い出し、また新規事業開拓の検討と具体化を行った。充足から約一年半の作業を経て、2010年4月に大学院改革作業部会より「明日の法政を創る」審議会に対し答

申を行っている。具体的には2011年4月から人文科学研究科が大学院法人法政大学が抱える課題解決に向け、さまざまに作業部会を設けている。

「大学院改革作業部会」も、一つの部会として立ち上がっている。その傘下に、「人文科学研究科」「社会科学」「自然科学」の三つの作業チームを配し、同作業部会と各作業チームとで、相互連携をとりながら本大学院の現状分析や今後の課題の洗い出し、また新規事業開拓の検討と具体化を行った。充足から約一年半の作業を経て、2010年4月に大学院改革作業部会より「明日の法政を創る」審議会に対し答

専門職大学院の今

法務研究科
イノベーション・マネジメント研究科
アカウンティング専攻

法務研究科

2004年の設置より、複雑化する現代社会の法律問題に対して、柔軟かつ適切に対応できる創造的応用力をもった人間性豊かな法曹の育成を目指している。

現在、その法曹となるための基本である基礎学力のより一層の涵養を図るため、2011年度からカリキュラム改編を行っている。また、来年度より意欲的かつ真摯に学ぶ優秀な学生への支援のため、奨学金制度を大幅に拡充強化した。

イノベーション・マネジメント専攻

日本初の1年制ビジネススクールとして創設され、今春設立7周年を迎える。創設以来、社会にイノベーションを起こす人材の育成を目的し、この春の修了予定者を含めると修了生数は250名を超えようとしている。

アカウンティング専攻

2009年度に4期生を輩出し、修了生総数も145名となった。2010年9月にはOB会の設立準備会も開かれ、修了生26名の出席のもと正式にOB会が設立された。今後の修了生・教員・大学相互の密接な交流が期待される。

学生スタッフが活躍 文部科学省・学生支援GP採択事業 「学生の力」を活かした学生支援体制の構築

学生センター

本学の「学生の力」を活かした学生支援体制の構築は、2007年度文部科学省「学生支援GP」に採択された。学生支援GPとは、新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラムのことで、学生の人間力を高め、人間性豊かな社会人の育成・輩出を目指して実施されている。

本学の取り組みは法政PSC(ピア・サポート・コミュニケーション)。「学生が学生を支援する」をコンセプトとしたピア・サポート活動をプロジェクト形式で展開、学生と大学(教職員)とが協働して取り組んでいる。

学生支援GP最終年度を迎え、本事業の経過報告とともにピア・サポートの可能性について述べる。

1. 「PSCサイクル」による循環型コミュニケーションを生み出したのか?

学生スタッフのきめ細かい対応が功を奏し、プログラムを実施するごとに「スタッフになってサポートしたい」という反響があった。また、学生が当日の運営を担う点について、参加者から「親しみやすい」「気軽に質問できる」といった感想が聞かれ、学生が関わることのメリットが十分に発揮できた。支援を受けた学生が支援する側に転じて

また、学生支援GP採択から3期の卒業生を輩出したが、卒業後も運営に関与して現役生の相談に応じている点は特筆に値する。ピア・サポートのコンセプトを十分に理解しているからこそのことである、真のサポートだと言える。

3. 「社会人基礎力」は身についたのか?

プロジェクト活動は、身近な問題の発掘・調査・交渉・実施・フィードバックの繰り返して、常に「実践」の連続である。その結果、学生の成長には目を見張るものがあった。この4年間、大半のスタッフが志望企業、志望業界に進路を決定したが、その一因となったことを願いたい。

また、担当職員にとって

の感想が多数聞かれたが、それだけでも成功だと言えることができる。さらに驚くべきは、学生スタッフから正課教育へのサポートの提案があったことである。大学院生なら知っておきたい基礎教養講座では、数学や心理学といった正課教育で行われている科目について、学生提案のプログラムが実施された。自分が学ぶ専門分野を他学部の学生サポートに活かしたいなどの声があり、今後正課教育においてもピア・サポートの可能性は計り知れない。

社会学部では読売新聞立川支局との共催による「連続市民講座」を、2010年度開催している。

この講座は読売新聞が多摩地域の大学と提携し5年前から開催しているもので、今年度は「絆(きずな)と縁(えにし)〈つながり〉を求めて 言葉・地域・地球・自然」を総合テーマとして本学社会学部教員による講義を展開、4月以降、これまで8人の教員が講義を行った。地域の人々の関心は高く、毎回多くの参加者を集めている。

今後の開催予定は、次の通り。

※駐車場利用不可

「問い合わせ先」
多摩事務部社会学部事務課
☎042-783-2351
公共交通機関(電車・バス)で会場ください。

現代福祉学部で初めての試みとなる「自治体推薦首長交流会」が10月28日、同学部棟で行われた。

現代福祉学部では2006年度より自治体推薦入試(まちづくりチャレンジ入試)を実施している。この入試は、地域福祉や地域づくり、環境問題など幅広い意味での「まちづくり」に関心を持ち、将来のような分野で活躍しようという志をもつ高校生たちを対象に、まちづくりに優れた実績を持つ自治体首長の推薦により入学を許可する制度。

この日は、同制度に参加



2010年10月2日、同じく「ピア・サポート」をコンセプトに2007年度学生支援GPに採択された関西大学との共催で、第2回学生支援GP連続シンポジウム「ピア・サポートの継続性と可能性」が、法政大学市ヶ谷キャンパス外濠校舎で行われた。

第一部では事例報告が行われ、両校で活躍する学生スタッフより日ごろの活動について趣向を凝らした紹介があった。第二部では「ピア・サポートの継続性と可能性」をテーマにパネルディスカッションが行われた。コーディネーター・司会を木原章市ヶ谷ボランティアセンター長(経営学部教授)が務め、法政大学からは原伸子多摩学生センター長(経済学部教授)、土屋貴之(学生センター市ヶ谷学生生活課職員)、鎌田紫織さん(文学部英文学科4年、課外教養プログラムプロジェクトリーダー)の3人、関西大学からは大島薫学生センター副所長(文学部教授)、早川亮馬氏(学生サービス事務局学生生活支援グループ)、上野俊行さん(商学部商学科4年、ピア・コミュニティ運営本部副部長)の3人がパネリストとして登壇した。写真は両校関係者による懇親会の様子。

ボアソナード・梅謙次郎没後100年記念

法政大学草創期とボアソナード・梅謙次郎展



ボアソナード胸像原型。1934(昭和9)年6月、日仏のボアソナード教授記念事業委員会により、パリ法科大学のボアソナード胸像が設置されたが、同年12月にこの原型が在パリ日本大使館を通じて本学に寄贈された。1953(昭和28)年12月、ボアソナード来日80周年を記念し、この原型をもとに2体のブロンズ像が制作され、本学と最高裁判所に置かれている。



馬袋鶴之助の法服。馬袋は1887(明治20)年に東京法学校を卒業し、兵庫県の豊岡で弁護士として活動した。馬袋が残した資料(明治の一弁護士訴訟事件簿、出納帳、日誌等)は馬袋文庫として本学ボアソナード記念現代法研究所に保管されている。

教頭ボアソナード、主幹薩埵正邦の署名が入った「帝国大学特別監督私立東京法学校」の卒業証



ボアソナード肖像画(飯田熊蔵画・1896年・油彩カンバス)

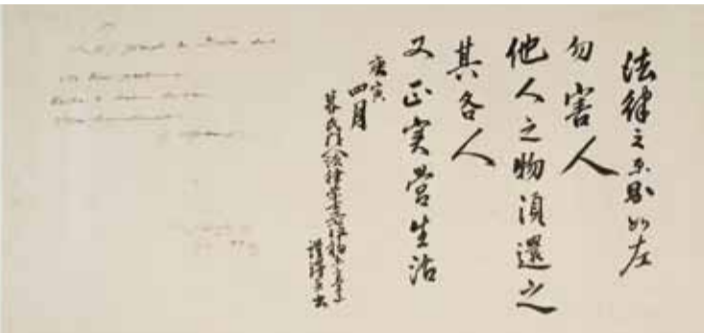
和仏法律学校の卒業証。ボアソナードのサインを見ることができる。



堀家文書(和歌山県立文書館寄託資料)中の堀正壽が残したボアソナードの「民法原理」講義筆記ノート(1892年)の一部。表紙の裏に当時の時間割が見られる。



堀家文書中の堀正壽の日記。明治24年9月11日の日記には「本日仏校へ入学」と、和仏法律学校へ入学した記述が見られる。



ボアソナード自筆のウルピアヌス(古代ローマの法学者)の法律格言とその翻訳文(福原直道訳)。ボアソナードに関しては、偶然目撃した傍聴に驚いて司法卿に抗議し、傍聴禁止の建白書を提出したのは有名な話だが、この時の司法卿宛の書簡と建白書の原文写しを含む、明治政府からの法律関係の質問に対するボアソナードの回答が筆写された「ボアソナード氏との交信録」(1978年に「ボアソナード答問録」として邦訳付きで法政大学出版局より復刊)や、署名が入った書籍なども展示された。

本学創立130周年を迎えた今年は、ボアソナード、梅謙次郎の没後100年にあたる。これを記念して、記念式典が行われた9月26日から11月14日の間、関連する貴重資料を展示した「法政大学草創期とボアソナード・梅謙次郎展」、および歴史的な校舎やキャンパス写真をパネル展示した「法政大学史写真展」が外濠校舎の展示スペースで行われた。これらの中から主なものを紹介しながら、本学草創期にボアソナード、梅が果たした役割の大きさを振り返ってみたい。

東京法学社の設立とその創立者たち

法政大学の歴史は、弁護士養成を目的とした1880(明治13)年4月の「東京法学社」の設立にさかのぼる。東京・駿河台に校舎を構えた東京法学社は、法教育を担う講法局と、田正忠、橋本勝三郎(はらだて)らを中心とした、また、東京法学社設立の際、資金面や経営ノウハウの相談に乗っていたといわれるのが、民間の法律家養成機関の先駆けとなる「法律学舎」を開校(1875年)した元田直(もとただ)らに先づいた。7人が、東京法学社の設立に大きく関わっていたとみられる。

日本近代法の礎・ボアソナード ● 東京法学校・和仏法律学校を無償で支えた12年間

ボアソナード(1825~1910)は、明治政府の法律顧問として来日した、いわゆるお雇い外国人の一人。当時の日本にとって急務の課題だった不平等条約の撤廃のため、国内法の整備に尽力し日本近代法の礎(いしずえ)を築いた。フランス・ヴァンセンヌ市で生まれたボアソナードは、パリ大学文科および法科を卒業し、パリ大学法科大学で教壇に立ち、1864年に法科大学教授資格(アグレグシエ)試験に首席で合格した。グルノーブル法科大学でアグレグシエとして講義を担当していた時、日本政府が鮫島尚信

東京法学校の開校と教頭ボアソナード

1881(明治14)年5月、東京法学社の講法局が独立して「東京法学校」が開校された。当時の「東京日日新聞」(5月28日付)掲載の広告には、「仏国法律大博士ボアソナード君爾來毎週一法学校」の卒業証が残されている。1888(明治21)年5月に特別認可

通訳を介して行われたボアソナードの講義

ボアソナードの東京法学校および和仏法律学校での講義は、1881(明治14)年5月から1894(明治27)年6月まで、途中1888年9月から1年3カ月の間フランス帰国により中断した以外、12年間にわたって無報酬で行われた。東京法学校時代のボアソナードの講義は、主として当時起草中の民法草案によってフランス語で行われ、それを森順正ら数人の教員が通訳して授業を進めたといわれている。ボアソナードによる講義科目は、東京法学校時代の1885(明治18)年度「期滿効法」、86年度「保証法」、87年度「物上権法」、88年度「物上担保法」、和仏法律学校時代の1892(明治25)年「民法原理」などが判明している。

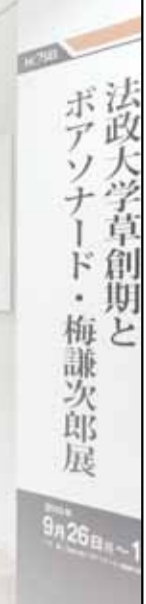
堀家文書で発見された和仏法律学校の時間割

今回の展示資料の中で、とりわけ貴重なのが、このボアソナードの「民法原理」講義を筆記したノートと日記だ。和仏法律学校の生徒で和歌山県出身の堀正壽が残したもので、堀家から和歌山県立文書館に寄託された「堀家文書」に含まれ、

● 明治25年度和仏法律学校時間割表 ●

Table with columns for 学年 (Year), 月 (Month), 火 (Tuesday), 水 (Wednesday), 木 (Thursday), 金 (Friday), 土 (Saturday), 日 (Sunday). Rows 1-8 show class schedules for various subjects like 民法 (Civil Law), 刑法 (Criminal Law), 商法 (Commercial Law), etc.

堀正壽の講義ノートにあった時間割から作成した、1892明治25年の和仏法律学校の時間割。当時の開講科目とその担当者がこれだけ詳細にわかる資料は貴重だ。

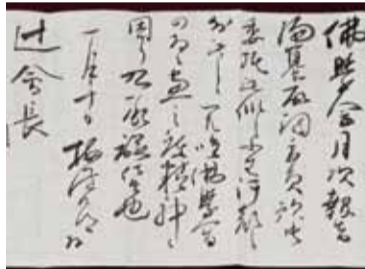
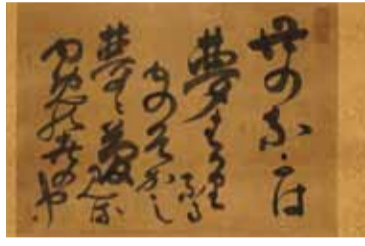


*和歌山県立文庫所蔵「堀家文書」(明治25年12月卒業堀正壽氏筆)

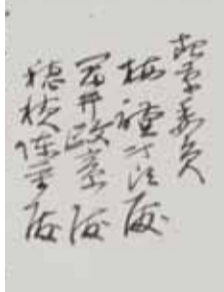
梅謙次郎肖像画 (中村勝治郎画・明治期・油彩カンバス)



くつろいだ時に書いたといわれる梅の書「世のなかは夢ばかりなるものぞかし夢に夢見るゆめの世の中」



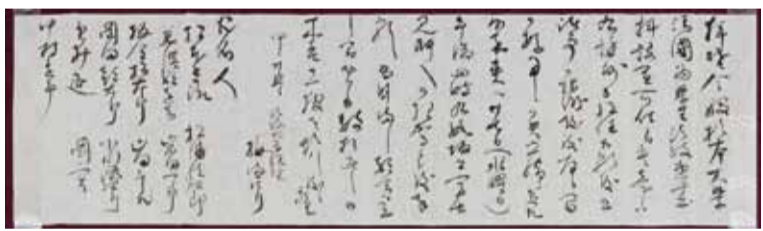
明治24年1月10日、梅謙次郎が仏学会会長の辻新次から仏学会月次報告編纂取調委員預を委託され、承諾したもの。辻は和仏法律学校設立時に理事を務めた。



明治政府の法典調査会査定委員を務める渋沢栄一が、起草委員の梅謙次郎、富井政章、穂積陳重に宛てた書簡。商取引の慣習に従った法案づくりが合理的だという意見を述べたもので、初公開となる貴重資料。



法政速成科講義録(左の2点)と、梅謙次郎による「清国留学生法政速成科の設置にあたって講義要請および諸事協議のため会合を開こうと出席の可否をたずねたもの」



梅謙次郎が松本蒸治、美濃部達吉ら11人の学者に宛てた書簡。清国留学生法政速成科の設置にあたって講義要請および諸事協議のため会合を開こうと出席の可否をたずねたもの。

● 民法の父・梅謙次郎 ● 国の要職に従事しながら和仏法律学校初代総理として尽力

梅謙次郎(1860)は、松江(現松江)の豪商・梅屋の長男として生まれる。1874(明治7)年に一家で上京し、7(明治10)年に農商務省参事(現農林省)に任ぜられる。その後は、農商務省参事(現農林省)に任ぜられる。その後は、農商務省参事(現農林省)に任ぜられる。

1884(明治17)年に司法省法学校を首席で卒業、司法省御用掛から東京大学法学部教授となった。85年に文部省の命により欧州留学。仏・リヨン大学、独・ベルリン大学に学び、1890(明治23)年に帰国した。

1898(明治31)年11月、和仏法律学校は財団法人の認可を受け、翌年に梅が校長に就任した。1903(明治36)年の専門学校令により、財団法人和仏法律学校は大学組織となり、文部大臣の認可を受けて「和仏法律学校法政大学」と改称。この時、梅は本学初代総理に就任し、1910(明治43)年に京城(現ソウル)で急逝するまで経営の中心となっていた。

1910(明治43)年8月25日、韓国政府の法顧問として渡韓していた梅が、腸チフスのため京城(現ソウル)で他界した。同年6月のボアソナードの計報(6月27日逝去)に続く梅の突然の死は、法政大学にとって大きな衝撃だった。1913(大正2)年、専任理事に選ばれた松室致が、空席となっていた大学代表者に就任。この時から総理の名称を学長に改めた。以後、18年間わたる松室致学長時代が始まる。1920(大正9)年4月、和仏法律学校法政大学は大学令による旧制大学となり、法政大学と改称した。

「法政大学史写真展」の展示写真から戦前の法政大学(一部)



ボアソナード・梅没後の法政大学

1910(明治43)年8月25日、韓国政府の法顧問として渡韓していた梅が、腸チフスのため京城(現ソウル)で他界した。同年6月のボアソナードの計報(6月27日逝去)に続く梅の突然の死は、法政大学にとって大きな衝撃だった。1913(大正2)年、専任理事に選ばれた松室致が、空席となっていた大学代表者に就任。この時から総理の名称を学長に改めた。以後、18年間わたる松室致学長時代が始まる。1920(大正9)年4月、和仏法律学校法政大学は大学令による旧制大学となり、法政大学と改称した。

法政速成科設置に際して、講師を依頼するため、松本蒸治東京帝国大学助教授、美濃部達吉東京帝国大学教授ら11人の法学・政治学の専門家に協賛のための会合に出席して、予科を新設した。この事業については、日本による韓国支配という負の歴史を前面に出した評価がなされる一方、韓国裁判制度および土地制度の近代化への貢献を評価すべきとする意見に二分されている。

インフラからサービスへ net2010スタート

2010年10月より全学に当たるサポート窓口を設け、利用者の相談に乗り、情報ネットワークが更新され、net2010の本格運用がスタートした。97年に全学ネットワークが導入されてから、3、4年で更新されてきた全学の情報基盤は、これにより第5世代に入った。

インターネットの急激な普及期にあたっては、全学ネットワーク初期の時代には、年々拡大する利用率と、やりとりされる情報量の拡大に対応し、量的な充足を実現することが何よりも優先された。

06年に導入された第4世代から、学内でも、また社会全体としてもネットワーク環境は量的に充足段階に入り、それを前提としてネットワーク上で提供されるサービス内容の充実や、安全性、堅牢性など、情報基盤の質がこれまで以上に重視される時期を迎えた。

第5世代にあたるnet2010では、まずサポート体制の充実を心がけた。学内におけるネットワーク利用の幅は着実に広がっており、総合情報センターが運用を担う全学ネットワーク上には、さまざまな部門が運用する情報サービスが多数ある。各部門が利用者サポートの対応を担っているが、一般利用者にとって問題がどこにあるかを特定することは難しい。

この問題を解決するため、net2010で総合受付に当たるサポート窓口を設けるなどの対応をとって、サポート体制の充実を心がけた。学内におけるネットワーク利用の幅は着実に広がっており、総合情報センターが運用を担う全学ネットワーク上には、さまざまな部門が運用する情報サービスが多数ある。各部門が利用者サポートの対応を担っているが、一般利用者にとって問題がどこにあるかを特定することは難しい。

この問題を解決するため、net2010で総合受付に当たるサポート窓口を設けるなどの対応をとって、サポート体制の充実を心がけた。学内におけるネットワーク利用の幅は着実に広がっており、総合情報センターが運用を担う全学ネットワーク上には、さまざまな部門が運用する情報サービスが多数ある。各部門が利用者サポートの対応を担っているが、一般利用者にとって問題がどこにあるかを特定することは難しい。

サステイナビリティ研究教育機構の理念と活動

機構長 (大学院委員会議長、社会学部教授) 船橋晴俊

2009年8月に発足し、設立時の理念として、サステイナビリティ研究教育機構は、大学院レベルにおける教育と研究を統合し、質的な向上を図るために設立された新しい拠点である。

サステイナビリティ(持続可能性)は、21世紀の人類社会の進むべき方向を示すキーワードであり、環境・経済・福祉のいずれの領域においても達成されるべき課題である。本機構は広義のサステイナビリティの探求をめざすことを目的とし、本機構では、多数の大学

2009年8月に発足し、設立時の理念として、サステイナビリティ研究教育機構は、大学院レベルにおける教育と研究を統合し、質的な向上を図るために設立された新しい拠点である。

サステイナビリティ(持続可能性)は、21世紀の人類社会の進むべき方向を示すキーワードであり、環境・経済・福祉のいずれの領域においても達成されるべき課題である。本機構は広義のサステイナビリティの探求をめざすことを目的とし、本機構では、多数の大学

競争的資金の積極的獲得状況 研究開発センター

競争的資金の概要

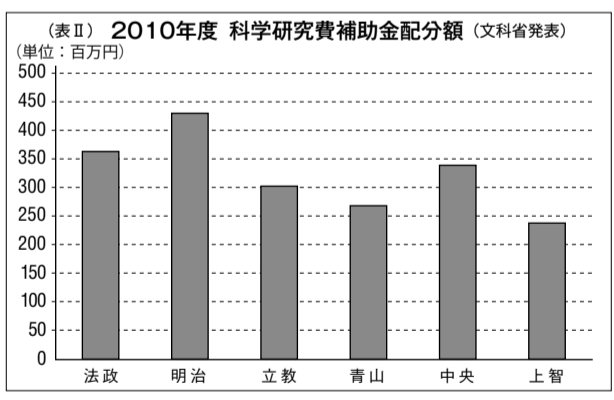
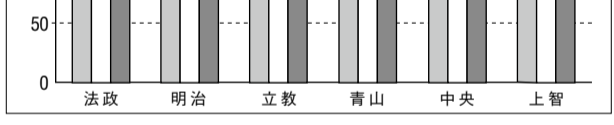
国は、限られた財政資金の下で高等教育機関が切磋琢磨しながら教育研究の質向上を図り、わが国の国際競争力を高めるべく、国公立の大学間を通じた競争的資金の獲得・活用を促進している。

文部科学省における競争的資金には、「科学研究費補助金(すべての学問分野において、基礎から応用まであらゆる学術研究を支援)」の研究補助金をはじめ、「大学教育・学生支援事業【テーマA】大学教育推進プログラム」「大学教育・学生支援事業【テーマB】学生支援推進事業」「大学教育推進プログラム」「大学教育・学生支援推進事業」の4つの採択件数は144件で08年度以降増加傾向となっている(表I)。総額

競争的資金の概要

国は、限られた財政資金の下で高等教育機関が切磋琢磨しながら教育研究の質向上を図り、わが国の国際競争力を高めるべく、国公立の大学間を通じた競争的資金の獲得・活用を促進している。

文部科学省における競争的資金には、「科学研究費補助金(すべての学問分野において、基礎から応用まであらゆる学術研究を支援)」の研究補助金をはじめ、「大学教育・学生支援事業【テーマA】大学教育推進プログラム」「大学教育・学生支援事業【テーマB】学生支援推進事業」「大学教育推進プログラム」「大学教育・学生支援推進事業」の4つの採択件数は144件で08年度以降増加傾向となっている(表I)。総額



告会、サステイナビリティに関する有力な外国語文献の翻訳・刊行などがある。これらの活動と並行して、回を2011年3月に計画している。

また、文書系、映像系の双方をカバーした「環境アーカイブ」の形成(多摩キャンパス)や、国際的協力ネットワークを背景にした英語版の『世界環境年表』(A World Environmental Chronology)の公刊準備にも取り組んでおり、本学大学院でも、若手研究者の育成に資するさまざまな制度改革への取り組みが国際交流の強化を軸に進んでいるが、それとの相乗効果も活かしつつ、本機構の実績を積み上げていく。

本機構の活動と成果はホームページで随時公表している。本学関係者の方々は、情報源として利用していただくことも、各方面からのご支援ご協力をお願いしたい。

さらに、毎年一回程度の国際シンポジウムにも取り組む予定であり、その第一回、若手研究者が一人ずつ発表する「研究成果報告会」を開催する。

http://research.cms.k.hosei.ac.jp/sustainability/

「科学研究費補助金」の採択件数は144件で08年度以降増加傾向となっている(表I)。総額は3億6313.5万円(間接経費含む)であった。金額では09年度比57.5%増(前年比28%増)。

【G.P.事業】今年度本学において「就業力育成支援事業」に採択された。期間は5年間。同補助金の増加を図るため、首都圏同規模他私大(医学部を持つ大学および早大を除く)では、明治大学から補助金応募の動きかけを行っており、さらなる応募増を促進するため学内助成金制度の見直しも図る。

学生が取り組む環境活動の推進 環境センター

「学生環境サポーター制度」では、具体的に計画作成・実践を学生自ら行うことによって、最も効果的であるとされている。まず、最初の企画として、7月下旬に市ヶ谷キャンパスで「打ち水in法政」が実施された。打ち水は毎年環境センターで実施していたが、今年度は学生からの要望で主体を学生に移し実施し、結果を環境センターホームページや本学で11月に実施された環境展で発表を行った。



法政大学では、環境活動を実践するために環境目的・目標を掲げている。環境目的の一つに「教職員向け体験型プログラムを企画・実践する」があるが、今年度の具体的な計画として、学生の環境への関心を喚起するために「学生環境サポーター」を募集した。この制度は「環境に関心や興味があるが、何をしたらいいかわからない」「環境活動をしたいがどこに行ったらいいの?」という学生をターゲットとし、応募してきた学生約20人を2010年5月に集め、学生同士はもちろんで、環境センターも含めて意見を交わし、活動の方向を「エコツアー」「他大学の活動調査」「環境関連文献紹介」などにまとめた。

学生環境サポーターとは別に、環境センターでは「サツマイモプロジェクト」や「市ヶ谷キャンパスの屋上緑化プロジェクト」も学生の環境活動として行われており、環境に興味を持つ学生の意欲を引き出す役割を、今後も環境センターが担っていく。



「学生環境サポーター制度」では、具体的に計画作成・実践を学生自ら行うことによって、最も効果的であるとされている。まず、最初の企画として、7月下旬に市ヶ谷キャンパスで「打ち水in法政」が実施された。打ち水は毎年環境センターで実施していたが、今年度は学生からの要望で主体を学生に移し実施し、結果を環境センターホームページや本学で11月に実施された環境展で発表を行った。

法政大学では、環境活動を実践するために環境目的・目標を掲げている。環境目的の一つに「教職員向け体験型プログラムを企画・実践する」があるが、今年度の具体的な計画として、学生の環境への関心を喚起するために「学生環境サポーター」を募集した。この制度は「環境に関心や興味があるが、何をしたらいいかわからない」「環境活動をしたいがどこに行ったらいいの?」という学生をターゲットとし、応募してきた学生約20人を2010年5月に集め、学生同士はもちろんで、環境センターも含めて意見を交わし、活動の方向を「エコツアー」「他大学の活動調査」「環境関連文献紹介」などにまとめた。

学生環境サポーターとは別に、環境センターでは「サツマイモプロジェクト」や「市ヶ谷キャンパスの屋上緑化プロジェクト」も学生の環境活動として行われており、環境に興味を持つ学生の意欲を引き出す役割を、今後も環境センターが担っていく。

日問 日訪

常に新たな挑戦を続ける 軍鶏鍋の名店「玉ひで」主人



玉ひで主人 山田耕之亮氏

Profile
やまだ・こうのすけ
1961年、東京・人形町の「玉ひで」の長男として生まれる。法政二高から法政大学社会学部応用経済学科卒業。日本料理店「玄治店 濱田家」での修行を経て、「玉ひで」入社。1998年に8代目を継承した。創業250年の伝統を誇り「親子丼の元祖」でもある老舗の技を守りつつ、明治期の複製版メニューやサークルKサンクスとコンビニ弁当の共同開発など、さまざまな挑戦を続けている。2010年10月には、羽田空港ビル内に、初の支店がオープン。

創業250年の軍鶏鍋 つけていたのですが、少し前に読んだ本の内容をすっかり忘れてしまっただけの乱読状態でした。2年次以降はさすがにペースが落ちましたが、それでも年間10冊は読んでおり、学生生活はとも充実感がありました。「父が法政大学出身で、バスケットボール部の監督を務めたこともある関係で、自然と法政志望になりました。妻も息子も法政で、親族にも法政の出身者が多く、家の中でいつでも校歌が歌えるのです(笑)」。

年間350冊を読破

山田氏は大学時代、推理小説研究会に所属した。西村京太郎の小説のファンだったから。ところが、週一回、課題本を読んで討論していると、周囲の学生の読書量に圧倒された。話題についていけないことも少なくなかった。

「そこで、大学1年生の時、年間約350冊を読破しました。『読書ノート』を意識が強かった。その意識は、その後、玉ひでで、ほかの人とは異なる視点で考えたいという意識が強く、6代目から書

は、老舗の鶏料理店を継ぐことを宿命づけられた立場だったからこそ身に付いたものだ」と語る。 「当時、職業選択の自由を歌うCMソングが流行していましたが、けれども、その自由が与えられていない私は、その歌がとも嫌いでした。とはいえ、店を継ぐことが嫌だったわけでは



「父は、親子丼は庶民の食べ物なのだから、安価で提供すべきという考えを持っており、40年間、600円から1000円の価格を貫きました。けれども、当然利益はなかったことから、従業員の間に『食べさせてあげている』という、いわゆる、5代目は高級料亭、6代目は鳥料理専門店、7代目はよりリーズナブルな店へと、それぞれの主人

の親子丼の価格だ。 「父は、親子丼は庶民の食べ物なのだから、安価で提供すべきという考えを持っており、40年間、600円から1000円の価格を貫きました。けれども、当然利益はなかったことから、従業員の間に『食べさせてあげている』という、いわゆる、5代目は高級料亭、6代目は鳥料理専門店、7代目はよりリーズナブルな店へと、それぞれの主人

「これまでの『玉ひで』は、ランチタイムの行列に象徴される繁盛店と

のポリシーに応じて変化している。山田氏が「変わらないように変えていく」と表現するように、そうした柔軟性が、250年間の挑戦も視野に入れている。これまで「玉ひで」は、

「ネット社会、デジタル社会の進展に伴って、時代は急激に変化しています。私の感覚ではついていけない状況も生まれつつある気がしています。時代にあわ

して評価されてきました。けれども、その状況が今後いつまでも続くとは限りません。特に2010年のような猛暑の中で、店外で待つただけでは、お客さまも大変な負担だと感じるのでないでしょうか。しかも、最近の都心再開発によって、テナントビルに入居する飲食店が増え、

キャリアアセンターのサポート

学生の就職状況

9社の協力を得て7月に開催し、本学の参加者数739人のうち、説明会出席企業への受験者数は297人で、内定者数15人という結果につながった。 「新たな公務人材育成策をスラムと、高学年向けの「内定取得」を応援するプログラムで構成されている。 低学年向けプログラムには、「新入生向けオリエンテーション」「はじめの一步講座(自分発見、仕事研究、キャリア研究、ソーシャルスキル訓練など)」「インターシップ」などがある。高学年向けプログラムには、「就職セミナー(自己分析、ト対策、筆記試験対策、面接対策など)」「学内企業説明会」「模擬面接会」などがあり、多種多様な企画が展開されている。

「キャリアアセンターは、4年生向けの個別相談、求人情報の携帯電話への送信などのサポートを続けることに

「キャリアアセンターのサポートは、低学年向けの「気付き・成長」を促すプログラムと、高学年向けの「内定取得」を応援するプログラムで構成されている。 低学年向けプログラムには、「新入生向けオリエンテーション」「はじめの一步講座(自分発見、仕事研究、キャリア研究、ソーシャルスキル訓練など)」「インターシップ」などがある。高学年向けプログラムには、「就職セミナー(自己分析、ト対策、筆記試験対策、面接対策など)」「学内企業説明会」「模擬面接会」などがあり、多種多様な企画が展開されている。

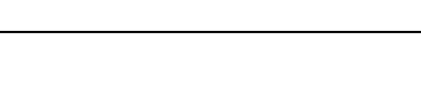
難関資格試験・採用試験の合格状況

難関資格試験・採用試験の合格状況。採用試験は、司法試験は新司法試験に合格者24人、本学関係者が合格を果した。

採用試験の合格状況。採用試験は、司法試験は新司法試験に合格者24人、本学関係者が合格を果した。



「キャリアアセンターは、4年生向けの個別相談、求人情報の携帯電話への送信などのサポートを続けることに





表章 (おもてあきら) 名誉教授

【主な経歴】1927年生まれ。北海道稚内市出身。東京文理大学卒業。51年9月、法政大学能楽研究室助手、翌52年4月、野上記念法政大学能楽研究所発足以来、45年以上にわたり、同研究所の所員として研究に邁進。86年より文学部長(能楽研究所長を兼務)。88年、文学部付置から独立した能楽研究所の所長となる。98年3月退職。本学名誉教授。主な著書に、『謡曲集(上・下)』『鴻山文庫本の研究』『金春古伝書集成』『世阿弥・禅竹』『能楽史新考(一・二)』『喜多流の成立と展開』『大和猿楽史参究』『観世流史参究』がある。95年に角川源義賞、05年瑞宝中綬章受章、09年法政大学能楽賞、10年日本学士院賞・恩賜賞受賞。

初めて表先生にお目にかかったのは1979年、まだ能楽研究所(能研)が麻布にあった頃だ。その頃の能研には、表先生に教える請おうと大学の枠を越えて多くの若い研究者や学生が集まっていたが、先生の周りでは誰もがビビリと緊張していた。80年に能研が市ヶ谷に移り、閑覧席と所員の机とが書棚で仕切られるようになった。先生は「驚き、異質な集中力と鋭さを生涯

山手子(能楽研究所教授) *COA(Center Of Excellence) 卓越した研究拠点

平成22年度学士院賞・恩賜賞受賞の表章名誉教授が急逝

本学名誉教授の表章(おもてあきら)元法政大学能楽研究所所長が2010年9月6日に83歳で急逝された。能楽史、能楽論の研究をはじめ、能楽研究全般を長年にわたってリードし、2010年には、平成22年度日本学士院賞・恩賜賞を受賞した。能楽研究所の山中玲子教授に表章名誉教授への追悼の辞を寄せていただいた。

表章先生を偲んで

本学名誉教授で能楽研究所元所長の表章先生が9月6日に亡くなった。6月に日本学士院賞・恩賜賞を受賞され、そのお祝いが9月15日に行われることになった。矢先の急逝である。初めに表先生にお目にかかったのは1979年、まだ能楽研究所(能研)が麻布にあった頃だ。その頃の能研には、表先生に教える請おうと大学の枠を越えて多くの若い研究者や学生が集まっていたが、先生の周りでは誰もがビビリと緊張していた。80年に能研が市ヶ谷に移り、閑覧席と所員の机とが書棚で仕切られるようになった。先生は「驚き、異質な集中力と鋭さを生涯

は減ったものの、能研主催の研究会で発表するプレッシャーは相当なものだった。皆、表先生に認めてほしかった。自分の大学のセミを放つても必死で準備したものだ。外国からも優秀な研究者が先生の指導を受けにやってくる。こうした人たちが今は日本全国(世界各国)で活躍し、今度は自分の学生を能研に送り込んでくる。言ってみれば、表先生一人で既に30年前にCOE拠点を作っていたようなものである。

晩年の先生はほとんど優しいお爺さんになっていかれた。能研にいらしても居眠りの時間が増え、「さすがにお爺さんになられたな」という印象があったが、いざ研究のことになると驚異的な集中力と鋭さを生涯

最後の日まで持ち続け、些(いささ)かの妥協も哀えも見せられなかった。亡くなる当日も若い人たちの研究会に出席されたし、最後の御仕事となった著書2冊(通夜の日に見本刷りができた)の校正には、行間をぎっしりと埋める赤ペンの書き込みで詳細な指定が残っている。

寿命がいつまで続くのかは誰にも知り得ないことだが、先生はご自分の中に残っていた生命の力を一滴の無駄もなく研究に注がれ、あの世に旅立たれたのだと思う。先生は原稿の字数や頁数をピッタリと合わせるのが好きだったから、二冊の本を仕上げた旅立ちを「してやったり」と思っておいでかもしれない。棺の中には名著『世阿弥・禅竹』を持って行かれた。胸もとにそっと開いて置かれた『世阿弥・禅竹』は、研究者として生き研究者として亡くなった先生にふさわしい勲章と見えた。

合掌

山手子(能楽研究所教授)

COA(Center Of Excellence) 卓越した研究拠点

活躍する体育会

主要大会結果(09年12月~10年11月)

国内主要大会で優勝

- 【スキー部】
▽第17回全日本学生アルペンスプリング大会/女子大対校選手権大会/男子20社2年
▽第79回日本学生陸上競技選手権大会/男子400m
小林雄一選手の力走



男子サーブルの試合風景

最高裁判所の判事法服を展示

遠藤氏から寄贈



市ヶ谷キャンパスの法科大学院棟1階ロビーでは、最高裁判所の判事法服を常設展示している。本学卒業生で1995~2000年まで最高裁判所判事を務めた遠藤光男氏(現・弁護士)が実際に法廷で着用していたものを寄贈いただいた。

「風」コレクション寄贈される

このほど、「風」研究の第一人者で蒐集家の故・比呂一朗氏のご遺族から本学へ和風や海外の風などのコレクションの寄贈があった。寄贈されたのは風(成形品または組立式キット)1995点、風絵(風キャンパスのポスター)1995点、風絵(風キャンパスで行われ、増田総長から比呂氏の奥様、悦子さんへ感謝状が手渡された。またコレクションの一部を展示した「風」比呂一朗コレクション」展覧会が7月6日~8月5日までポアンナード・タワー14階博物館展示室で開催され多数の見学者でにぎわった。



環境にやさしい交通システムの構築や街の賑わいづくりを目指す「千代田区コミュニティサイクル社会実験」が本学でも10月下旬~11月まで実施された。同区は平成21年に国から「環境モデル都市」に選定されており、実験は神田・秋葉

「千代田区」コミュニティサイクル社会実験に参加



原・神保町周辺などでマルチポート型コミュニティサイクルを設置し行われた。本学は区が実施する「千代田区」に採択され、この事業に参画。経済学部・永井セミ、デザイン工学部・宮下セミ、人間環境学部・石神セミの3つのセミが協働して取り組んでいる。区内の温室効果ガス削減にとどまらず、企業での業務利用の実態調査、自動車専用道路の整備の可能性、オフィスの観光スポット等でのレンタサイクル導入の可能性についても、調査・提言を行っていく予定だ。

0m 小林雄一(経済3年)
▽第62回全日本フェンシング選手権大会/男子エペ団体
▽第60回日本学生王座決定戦/男子サーブル団体

▽第50回全日本大学対抗選手権大会/男子サーブル団体/男子エペ団体
▽第61回全日本学生バドミントン選手権大会/男子団体

▽男子56kg級 東門勇将(キャリアデザイン3年)
▽第56回全日本学生ウエイトリフティング個人選手権大会/男子62kg級 平塚健太(キャリアデザイン4年)
▽94kg級 芦渡翔(文4年)

全日本選手権で優勝したポード部女子エイト

野球部の加賀美投手がドラフトで横浜が52位指名
2010年10月のプロ野球のドラフト会議で、体育会野球部の加賀美希昇投手(人間環境学部4年)が横浜ベイスターズから2位指名された。加賀美投手は神奈川県桐蔭学園出身。186cm、88kgの右腕で、150km超えのストレートに加え、カーブ、チェンジアップなどをまじえた多彩さと制球の良さが特徴。本学OB多数が活躍するプロ野球界で、加賀美投手の飛躍が注目される。



男子サーブルの試合風景

重量部

▽第55回全日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会/男子団体
▽第7回全日本学生ウエイトリフティング選抜大会



105kg超級で優勝の長谷川選手

▽第56回全日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会/男子62kg級 平塚健太/男子105kg超級 長谷川康(経営2年)

▽第22回全国大学弓道選抜大会/男子の部(団体)

国際大会の主な記録

【スキー部】
▽2009-2010 FIS FAR EAST CUP Yabuli(中国)
2009年12月/男子大回転優勝 松本勲人(社会4年 当時)

水泳部

▽第5回東アジア競技大会(2009年12月)/男子4x200mリレー優勝、4x100mリレー優勝、男子200m自由形2位、同400m2位 内田翔(人間環境4年 当時)
▽2010ワールドカップ遠征(ブラジル)/男子200m平泳ぎ1位 大塚一輝(人間環境4年)

【ボート部】
▽第88回全日本ボート選手権大会/女子エイト 長岡ちあき(文3年)、竹下和花子(文2年)、野木保菜美(経営2年)、林瑞穂(文2年)、合谷優花(経営4年)、長屋実央子(文4年)、前川香澄(経営3年)、西尾浩美(法4年)、松本有紀(東京経済大4年) 《女子エイトは混成クルーの出漕が可能》

【重量部】
▽第2回世界大学ウエイトリフティング選手権大会/男子56kg級 2位 東門勇将

活躍する体育会に 温かい応援を よろしくお願いたします!



チームメイトに祝福される加賀美投手